

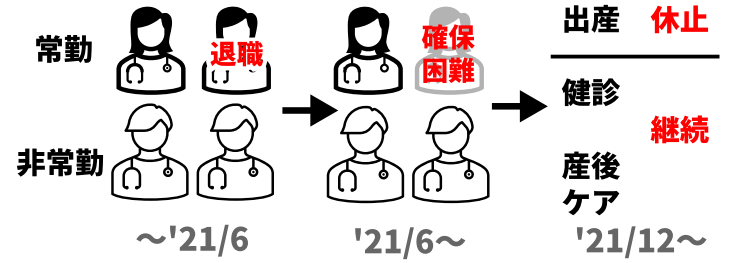


一般質問映像

vol.5 産科が遠くて大変です

安心なお産のために
いま、朝来市ができること

八鹿病院の産婦人科の体制

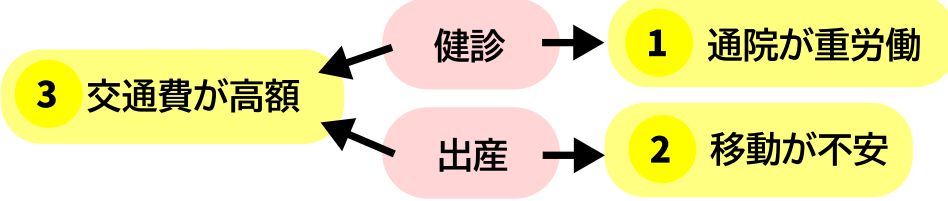


八鹿病院は医師不足のため、12月から出産ができません。加藤は12月議会で、市民が安心して出産できるよう支援を求めました。朝来医療センターでの妊婦健診の早期実現、救急車とタクシーによる出産時の移動支援を提案しました。

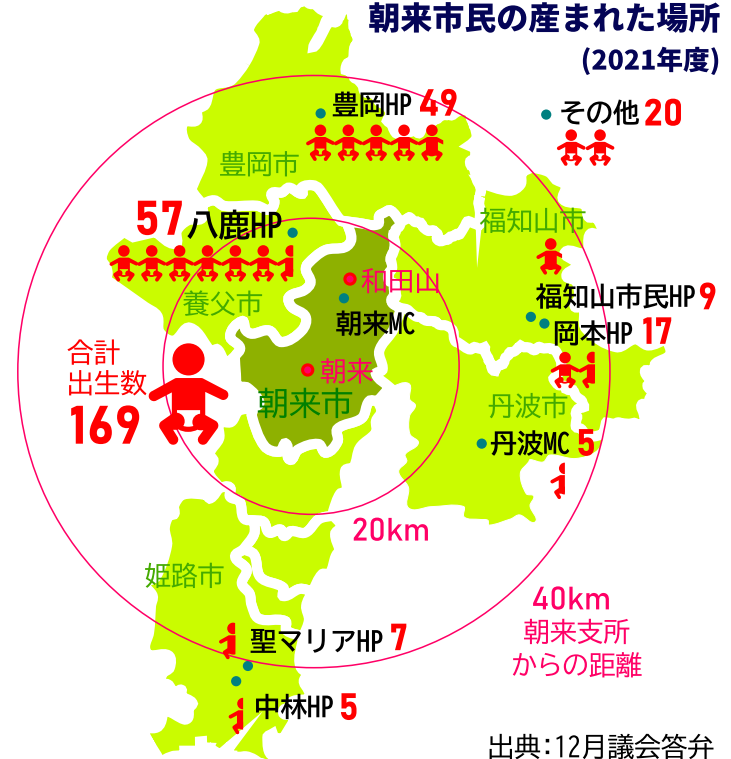
八鹿病院は朝来市民の最も身近な産科でしたが、休止により私たちの出産場所はさらに遠くなりました。

日本の現状を見ると、出産年齢の上昇によりハイリスク妊婦が増えています。また、出産件数は減少しています。このことから地域の中で産科の集約をすることは時代の流れと考えます。

加藤は産科が遠いことの課題を3つにわけ、それぞれについて市に対して支援を求めました。



朝来市民の産まれた場所 (2021年度)



出典: 12月議会答弁



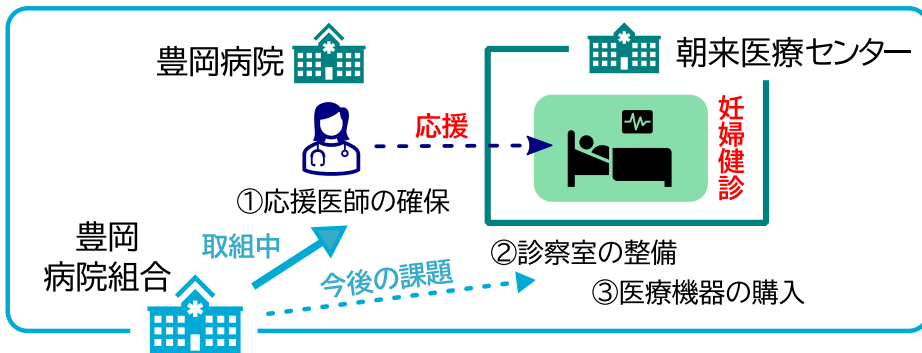
提言①

朝来医療センターでの妊婦健診の早期実現を

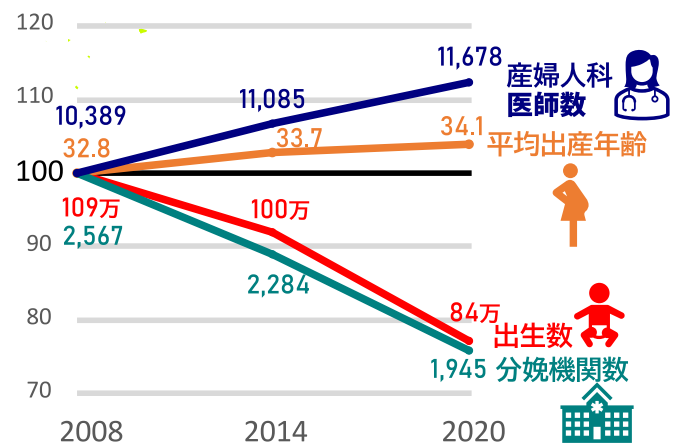
豊岡病院組合に要望を重ねており、実現に向けて動いている



出産までの約40週間に、通常14回の妊婦健診を受けます。遠方への通院は重労働です。健診だけでも市内で受診できれば楽です。現在、豊岡病院組合は応援医師の確保に取り組んでいるとのこと。今後、市の独自財源を使ってでも早期実現を図るよう要望しました。



日本の産婦人科を取り巻く現状



グラフは2008年の値を100とする。出典: 厚生労働省

どうなった?

これまで加藤が行った主な提言のその後を報告します。

- バス減便の対応と予約制アコバスの利便性向上を
- 新・生野庁舎は地元木材を使って木造化を
- 外国人市民のための日本語教室の拡充を
- 市内に通所型産後ケア施設を開設しママに安らぎを
- 子育ての情報発信を改善し必要な情報を得やすく
- 消防団員の処遇改善を実施し団の活性化を

生野町内で予約型乗合バスの社会実験を実施中です。構造は鉄筋ですが、表面に町内産木材を使う設計です。山東町の教室に併せ、市内南部で2校目を開設予定です。昨年12月から市内4施設にて産後ケアが利用可能です。子育て特設サイトを4月のHP刷新に併せ開設予定です。4月から報酬の増額と団員への直接支給を実施予定です。





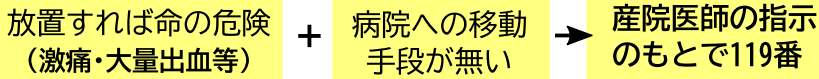
救急車・タクシーと連携して 病院への移動手段の確保を

効果的な仕組みづくりについて研究をしていく



出産時、病院へたどり着けるかは多くの妊婦の不安です。近くに送迎できる人がいない場合、頼れるのは救急車かタクシーです。

救急車の利用について 緊急時には救急車は要請可能です。



消防法および議会答弁より

ただ、緊急時に落ち着いて対応するのは難しいです。そこで、岡山県高梁市等には「ママサポート119」と呼ばれる制度があります。妊娠時に産院や予定日の情報を消防本部に登録しておくことで、緊急時にスムーズな搬送が可能となります。

ママサポート119



高梁市HP



タクシーの利用について

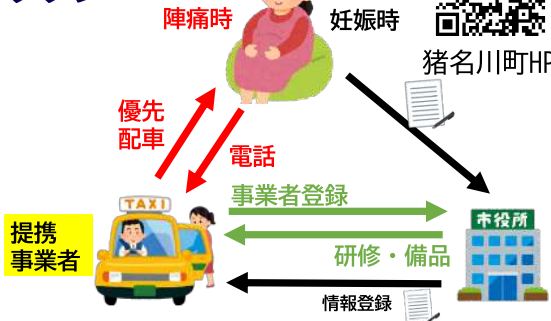
ドアツードアで移動できるタクシーは便利な手段です。しかし、全ての事業者が出産時に利用可能というわけではありません。



あさご子育てガイドブックおよび議会答弁より

不可能な理由のうち「出産への知識不足」は解決可能な課題です。兵庫県猪名川町等では、町役場がタクシー事業者と連携し「出産サポートタクシー」を運行しています。そこでは事業者へ事前に出産の理解を深める研修を行っています。

出産サポートタクシー



加藤は11月に猪名川町役場で詳しいお話を聞きました。タクシー運転手への研修では助産師や消防本部による座学の講義のほか、お腹に重りをつけて妊婦体験を行います。



車のステッカー

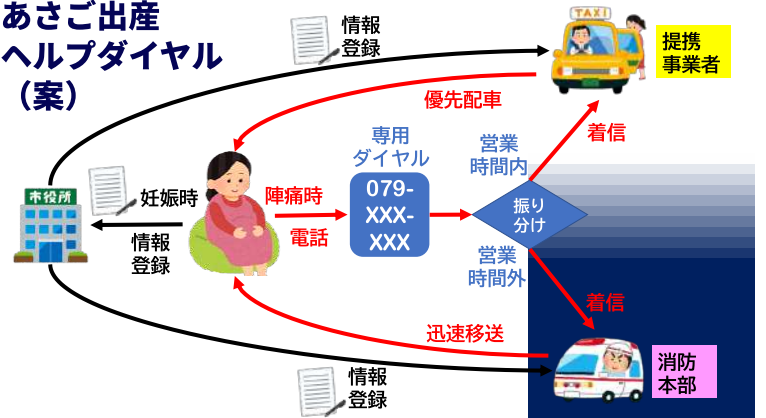
破水に備えて防水シート等の用意もしています。この事業は実際に利用するかはともかく、登録することで安心を得ることが一番の目的とのことです。役場・助産師・消防本部・タクシー事業者がワンチームで母子の命を支える、そんな熱い気持ちを感じました。

市役所・タクシー・救急車の3者連携を

	対応できる場合	対応時間帯
救急車	緊急の場合のみ	24時間対応
タクシー	通常の場合	日中帯中心

このように救急車とタクシーには違いがあります。24時間のタクシーの体制が難しい朝来市では、日中帯はタクシー、夜間は救急車という連携体制をとるべきだと加藤は考えます。次の仕組みを市長に提案しました。

あさご出産ヘルプダイヤル(案)



電話の自動転送の機能を使って、タクシーの営業時間外には消防本部に自動的につながる仕組みです。これにより、専用ダイヤルに電話をすれば、タクシーか救急車かどちらかで病院に行けます。市長からは、何が最適な仕組みか研究したい、とのことでした。



出産時の移動に対して 交通費の支援を

産前・出産・産後の交通費 助成を前向きに検討したい



最後に、費用面での支援を求めました。市長は前向きな返答でした。政府の来年度予算案でも検討がされています。しかし、最近のニュースを見ていると政府の子育て関連の計画は流動的な印象です。国県からの支援がなくても、市独自に実施を図るよう求めました。

今後も、市役所・事業者・消防・病院等への調査を継続し、安心して出産できる朝来市にしていきたいです。

どうなった?

十月の個人報告会での
ご意見の対応状況です。

スマホ教室を開催してほしい

4月から奥銀谷自治協でドコモさんに来ていただき開催する計画です。

水道代・ガス代の支援をしてほしい

あさご元気券はその目的ですが、継続的な支援を求めています。

市道の除雪をもっと早く来てほしい

これまでの市内34業者(生野7)から39業者(生野8)に増強されています。

空き家・空き地を増やさない方策を

生前の資産売却等の施策について1, 2月に重点的に調査します。

町内の側溝に水を流してほしい

生野3区・4区の側溝に水を流す方法について今年前半で調査します。